

平成20年度 新潟応用地質研究会見学会報告

渡 辺 愛*

平成20年度新潟応用地質研究会の見学会は、(株)地盤工学会北陸支部及び(株)日本技術士会北陸支部の共催により、平成20年10月24日に23名の参加にて行われた。今回の見学地は、胎内川上流に建設中の奥胎内ダムと胎内市(旧黒川村)にある2つの資料館である。当日は集合時から小雨が降るあいにくの天気であったが、8:30に新潟駅南口バスターミナルを出発し、国道7号線を走り、最初の見学地である奥胎内ダムを目指した。

奥胎内ダムは、新潟県が胎内川総合開発事業の一環として、建設を進めている重力式コンクリートダムである。奥胎内ダムは、既設の胎内川ダムの上流部に平成14年度から建設中で、平成25年完成予定である。これら2つのダムは、洪水被害を軽減すると同時に、下流にある胎内リゾート地域への水道水の供給・発電など行うことを目的としている。

今回は、新発田地域振興局 地域整備部 奥胎内分所の皆様のご厚意により、建設現場の見学をさせて頂く前に、担当の方から、工事事務所にてダムの概要と環境保全への取り組みについて、約40分程度ご説明して頂いた。特に奥胎内ダムは、磐梯朝日国立公園の第一種特別地域内に建設される国内唯一のダムであるとのことで、一例として紹介された猛禽類クマタカの生息環境に配慮した保全対策についてのお話は、大変興味深いものであった。



現地見学前に会議室でスライドを用いた説明をして頂いた

工事事務所で説明頂いた後、バスにてダム建設現場へ移動して、斜面上方の工事用道路から、本体の基礎掘削が行われている様子を視察した。この掘削工事で使用される建設機械は、クマタカなど猛禽類を刺激しないよう、機械本体の色彩を保護色にしているとのことであった。現地見学も小雨の降る中ではあったが、紅葉し始めた山を背景に、各々活発に質問などを行っていたようである。



紅葉し始めた山に囲まれながら、工事現場にて説明を受ける

昼食を工事事務所と併設する奥胎内ヒュッテにて頂いた後、午後からは同じく胎内市にある地質にまつわる資料館を見学した。

まず初めに訪れたクレーストーン博士の館は、鉱物や岩石を中心とした資料館で、博士の書斎に見立てた室内には、国内外の様々な試料が数多く展示されていた。鉱物や岩石のほか、化石なども展示されており、資料館の方から、いろいろなエピソードをまじえた説明を受けながら、かなり会話が弾んだ人達もいたようで、1時間程度かけてゆっくり堪能した。



資料館の方からの説明を聞く参加者の皆さん（クレーストーン博士の館にて）

次に訪れたシンクルトン記念館は、同記念公園内にある石油にまつわる資料館である。旧黒川村一帯は、日本書紀に「越の国、燃土（もゆるつち）、燃水（もゆるみず）を献る（たてまつる）」と記された地と伝えられており、臭水（原油）が湧き出していたことから「黒川」の地名がついたと言われているとのことであった。たしかに建物に入る前にある側溝からは、ボコボコとガス？が湧き出る音がしていたし、水溜まりのような窪みにはタール状のものが溜まっている様子も観察された。公園内にはかつて油を摂っていた油坪（地面に掘られた縦穴）や井戸が残っており、今も黒々とした水面を湛えていた。館内に展示されていた油も、受付けをして下さった男性のご自宅にある油坪から採取したものとのことであった。なお、この辺り一帯の山中には、このような油をとるための穴が、かなりの数残っているらしく、知らずに足を踏み入るとうっかり穴に落ちてしまう可能性もあるとのことだ。



シンクルトン記念公園内にあるかつて油を採っていた池? 当時は、
写真中央にある「カグマ」と呼ばれるシダの一種で採油していたそうだ

以上、ダム建設現場及び2つの地質にまつわる資料館を見学し、午後5時前には新潟駅に到着、事故無く予定通り今回の行程を全て終了することができた。

奥胎内ダムは、一般の方を対象とした現地見学&説明会を行っているようである。また、午後から見学した2つの資料館も含め、胎内市内には様々な施設があるので、今度は是非ご家族で出掛けられてみてはいかがでしょうか。

最後に、奥胎内ダムでご説明頂いた奥胎内分所の北上氏、風間氏の両氏をはじめ、今回の見学を快くご承諾下さり、ご協力して下さいました関係各位にこの場を借りて深く感謝致します。